

## 観光研究

ここでは、わが国の観光の発展に寄与する学術面での「観光研究の動き」を概観する。

### (1) 日本国内の観光関連学会

データベース「学会名鑑」(日本学術会議、公益財団法人日本学術協力財団、国立研究開発法人科学技術振興機構)によると、2020年7月現在、国内主要学術団体(2,074件)のうち、学会名称に「観光」「ツーリズム」「旅行」「リゾート」「余暇」「レジャー」「レクリエーション」「ホスピタリティ」のいずれかの語を含む学会は、合計で12団体である(表 付記-1)。

#### ① 全国大会

新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて全国大会の中止もやむを得ない状況下において、オンラインに切り替えて開催する学会も目立った。

全国大会のテーマでは、「レジャー・レクリエーションの歩みから学ぶこれからの可能性」(日本レジャー・レクリエーション学会)、「社会構造の変化と余暇ツーリズム」(余暇ツーリズム学会)などのほかに、「With/After コロナ時代における観光ホスピタリティ教育のあり方」(日本観光ホスピタリティ教育学会)のようにコロナを取り上げた学会もあった。

#### ② 機関誌・学会誌

各学会が発行する機関誌・学会誌は合計13誌である。20年度に発行された機関誌・学会誌の中で特集テーマが設定されていたものとしては、「観光に及ぼす負の影響について考える」(日本観光研究学会)、「新型コロナウイルス感染症拡大とオンライン授業への対応」(日本観光ホスピタリティ教育学会)、「物語と観光」(観光情報学会)などがあつた。

### (2) 大学・大学院

「観光」「ツーリズム」「ホスピタリティ」のいずれかの語を含む学部、学科を有する大学は43、大学院は11で、2019年度と同様であった(表 付記-2)。

観光庁は、地域の観光産業における経営力や生産性の向上を図ることを目的に、2015年度より「産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業」を大学に委託して

表 付記-2 日本の観光関連大学・大学院の数

	大学	学部	学科	大学院
2020年度	43	16	43	11
2019年度	43	16	43	11
2018年度	43	16	45	11

資料:文部科学省「年度別開設大学等一覧」、各大学サイトより(公財)日本交通公社作成  
(注) 大学の場合は学部・学科名に、大学院の場合は研究科・専攻名に「観光」「ツーリズム」「ホスピタリティ」という言葉を含むもののみをカウント。

取り組んでおり、2020年度は全国7大学において「中核人材育成講座」が開講された(表 付記-3)。

なお、採択校は、2020年度に山口大学が採択されたことで、自走化校(観光庁による事業採択期間が終了し、講座を継続実施する採択校)を含めて実施校は14大学に拡大した(表 付記-4)。

表 付記-3 地域の観光産業を担う中核人材育成講座のテーマ(2020年度)

大学	講座テーマ
明海大学	with コロナ時代の観光人材育成
北陸先端科学技術大学院大学	地域観光のイノベーション人材講座
信州大学	ユニバーサルフィールド・コンシェルジュ養成講座
滋賀大学	ウェルネスツーリズムプロデューサー養成講座
和歌山大学	観光・地域づくり講座(旧観光カリスマ講座)
山口大学	SDGsによるスポーツ観光講座
愛媛大学	愛媛・四国の儲かる観光サービス業を担う中核人材育成講座

資料:観光庁ホームページより(公財)日本交通公社作成

表 付記-4 全国の各地域における実施校一覧(採択順)

北海道・東北	小樽商科大学、青森大学
関東	東洋大学、明海大学、横浜商科大学
甲信越・北陸	信州大学、北陸先端科学技術大学院大学
近畿・中部	和歌山大学、関西国際大学、滋賀大学
中四国・九州	大分大学、鹿児島大学、愛媛大学、山口大学

資料:令和2年度「産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業」報告書(令和3年3月、観光庁 参事官(観光人材政策)付)

### (3) 科学研究費助成事業における観光学の扱い

2020年度の科学研究費助成事業(以下、科研費)「観光学関連」(小区分80020)における新規採択件数は91件(交付89件、採択後辞退1件、留保1件)、研究種目の内訳は、基盤研究(B)13件、基盤研究(C)59件、若手研究18件、特別研究員奨励費1件であった(表 付記-5)。

配分される科研費の合計は4億5,063万円、その内訳は、100万円未満が3件、500万円未満が75件、1千万円未満が4件、5千万円未満が9件となっている。

研究のキーワードとしては、観光(14件)を筆頭に、インバウンド(4件)、観光行動(4件)、以下3件で、tourism、コミュニティ、ソーシャルメディア、ツーリズム、ビッグデータ、文化遺産、観光振興、観光行動と続く。

新規採択件数を研究機関別にみると、4件で九州産業大学(総配布額14,690千円)、北海道大学(同11,750千円)、立教大学(同36,270千円)、和歌山大学(同20,020千円)、3件で東京都立大学(同23,400千円)、奈良県立大学(同23,920千円)、福知山公立大学(同8,710千円)、立命館大学(同6,890千円)と続く(表 付記-6)。

(吉澤清良)

表 付記-1 国内の観光関連学会の概要

	学会名・会員数	会長、本部/事務局、支部	活動内容(2020年度)	学会誌(機関誌)、大会論文集
1	日本観光学会 Japan Academic Society of Tourism (JAST) ○正会員 200名 ○準会員(大学院生・学部生) 37名 ○賛助会員 1団体 (2021年7月現在)	【会長】 神頭広好(愛知大学) 【本部/事務局】 青山学院大学社会情報学部 長橋研究室 【支部】 東北・北海道支部、関東支部、中部支部、関西・中国支部、九州・沖縄支部	○全国大会の開催(年1回、研究報告、シンポジウム、学会総会等) ※2020年度第114回大会は新型コロナ禍により中止 ○支部会(研究発表会、支部総会)の開催 ※関東、中部、九州・沖縄支部のみオンライン開催 ○第4回学生観光プレゼン大会(関東支部主催) ※2020年度第4回大会は新型コロナ禍により中止 ○機関誌の発行(『日本観光学会誌』、年1回) ○学会賞の授与	【学会誌】 『日本観光学会誌』(1996年～、年1回) (前身『日本観光学会研究報告』1961～1995年) ・2020年度: 第61号 論文1本、研究ノート2本、書評2本 【大会論文集】 『研究発表要旨集』(年1回)
2	日本レジャー・レクリエーション学会 Japan society of Leisure and Recreation Studies (JSLRS) ○正会員 277名 ○購読会員 20団体 (2021年7月現在)	【会長】 前橋明(早稲田大学) 【本部/事務局】 早稲田大学人間科学学術院 前橋明研究室 【支部】 なし	○学会大会(年1回、地域研究、基調講演、シンポジウム、研究発表、ワークショップ、総会等) ・2020年度日本レジャー・レクリエーション学会第50回記念大会テーマ: レジャー・レクリエーションの歩みから学ぶこれからの可能性【オンライン開催】 ○研究会・講演会等の開催 ○機関誌の発行(『レジャー・レクリエーション研究』) ○学会ニュースの発行(年2～3回) ○学会賞の授与(日本レジャー・レクリエーション学会賞(学会賞、研究奨励賞、支援実践奨励賞、貢献賞)、2007年～) ○研究の助成(研究助成金制度、2011年～) ○内外の諸団体との連絡と情報の交換(世界レジャー機関、全米レクリエーション・公園協会との情報交換、ホームページのリンク等)	【学会誌】 『レジャー・レクリエーション研究』 (1992年～、年3回) (前身『レクリエーション研究』1965～1991年) ・2020年度: 第91号 原著3本、総説1本 第92号 第50回記念大会発表論文集 第93号 原著3本、第50回記念大会 基調講演1本、特別講演1本、地域研究1本 【大会論文集】 なし(学会誌に発表要旨を掲載)
3	余暇ツーリズム学会 The Association for Leisure and Tourism Studies ○正会員 153名 ○準会員 5名 ○名誉会員 3名 (2021年8月現在)	【会長】 佐々木一彰(東洋大学) 【本部事務局】 東洋大学 国際観光学部 佐々木一彰研究室 【支部】 関東支部、九州支部	○学会大会の開催(年1回、自由論題報告、会員総会、統一論題報告: 討論等) ・2020年度全国大会テーマ: 社会構造の変化と余暇ツーリズム【オンライン開催】 ○支部大会の開催(年1～2回、研究発表等) ○研究部会の開催(ライフスタイル研究部会、ヘルス・スポーツツーリズム研究部会、飲料サービス研究部会、レジャー・スタディーズ研究部会、エンタテインメント・ツーリズム研究部会、プライダル研究部会、ツーリズム心理研究部会、学生教育研究部会) ○学会誌の発行(『余暇ツーリズム学会誌』) ○図書編集(『おもてなし』を考える ―余暇学と観光学による多面的検討) ○受託研究 ○会員の研究活動支援 ○学会賞の授与(2016年～)	【学会誌(機関誌)】 『余暇ツーリズム学会誌』 (前身『余暇学研究』1998～2013年、『ツーリズム学会誌』2001～2012年) (2014年3月～、年1回) ・2020年度: 第8号 論文5本、研究ノート2本、 基調講演1本、統一論題報告1本
4	日本観光研究学会 Japan Institute of Tourism Research (JITR) ○正会員 1,099名 ○準会員 8名 ○名誉会員 8名 ○賛助会員 4団体 ○特別会員 8団体 (2021年7月現在)	【会長】 梅川智也(國學院大学) 【本部/事務局】 東京都豊島区西池袋4-16-19 コンフォルト池袋106 【支部】 関西支部(2003年7月設立) 九州・韓国南部支部 (2007年4月設立) 東北支部(2015年3月設立)	○全国大会の開催(年1回、講演会、シンポジウム、研究発表等) ・2020年度第35回全国大会シンポジウムテーマ: 京都から観光の未来を考える ―コロナ後の世界を見据えて【オンライン開催】 ○総会の開催(年1回、講演、学会賞表彰、シンポジウム) ○研究分科会の設置、助成 ○研究懇話会(年2回、1月と7月)の開催 ○支部の活動 ○機関誌の発行(『観光研究』) ○観光学全集の発行 ○会務報告の発行(『会務報告』、年2回) ○メールニュースの配信 ○特別研究の助成 ○学会賞の授与(論文奨励賞、観光著作賞、2007年度～) ○優秀論文賞の授与 ○図書の監修(『観光学全集』全10巻予定) ○観光研究に関する外国諸団体との交流等	【学会誌】 『観光研究』(1987年～、年2回) ・2020年度: Vol.32 No.1 論文4本、研究ノート1本、学会活動報告等 Vol.32 No.2 論文7本、論説1本、 特集『観光に及ぼす負の影響について考える』4本、学 会活動報告等 【大会論文集】 『全国大会学術論文集』(1986年～、年1回)
5	日本国際観光学会 Japan Foundation for International Tourism (JAFIT) ○正会員 390名 ○学生会員 (大学院生・大学・短期大学・専門学校生) 40名 ○名誉会員 2名 ○賛助会員 2団体 (2021年7月現在)	【会長】 島川崇(神奈川大学) 【本部/事務局】 東京都千代田区二番町1-2 番町ハイム701 【支部】 なし	○全国大会の開催(年1回、基調講演、研究発表等) ・2020年度第24回全国大会特別講演テーマ: 聖地巡礼ーローマとアッシジの想い出ー【オンライン開催】 ○例会の開催(研究発表、講演、年5回) ○論文集の発行(『日本国際観光学会論文集』) ○産学協同セミナー「ツーリズム・フォーラム」の開催(2003年～) ○自由論集の発行(年1回) ○テーマ別研究部会による活動(①観光への知的財産権活用、②宿泊関連、③持続可能な観光、④精神性の高い観光、⑤福祉観光、⑥おもてなし文化、⑦航空マネジメント、⑧オーバーツーリズム、⑨デステネーション&ブライズブランディング、⑩ワーケーション、⑪観光マネジメント) ○国内外でのシンポジウム開催 ○国際観光研修旅行の実施 ○教科書・学術書の出版 ○懸賞論文の実施(太田記念国際観光懸賞論文) ○国際観光に関する学術調査及び研究 ○内外の企業、団体、個人からの委託研究 ○関連学会、協会との連絡及び交流	【学会誌】 『日本国際観光学会論文集』(1993年～、年1回) ・2020年度: 第28号 論文6本、研究ノート9本 『日本国際観光学会自由論集』(2017年～、年1回) ・2020年度: 『自由論集 Vol.4』(21本) 【大会論文集】 『全国大会梗概集』(2001年～、年1回発行)
6	日本ホスピタリティ・マネジメント学会 Japan Academic Society of Hospitality Management (JASH) ○正会員 172名 ○学生会員 2名 ○名誉会員 5名 (2021年3月現在)	【会長】 藤本享(北見工業大学) 【本部/事務局】 江戸川大学社会学部 崎本武志研究室 【支部】 北海道支部、関東支部、 関西支部、九州支部	○全国大会の開催(年1回、研究発表、年次総会、基調講演、パネルディスカッション等) ※2020年度大会は新型コロナ禍により中止 ○研究専門部会の開催(適宜) ○研究発表会 ※各支部ともに新型コロナ禍により中止 ○学会誌の発行 (『HOSPITALITY』『INTERNATIONAL JOURNAL OF JAPAN ACADEMIC SOCIETY OF HOSPITALITY MANAGEMENT』)	【学会誌】 『HOSPITALITY』(1993年～2012年度: 年1回、 2013～2015年度: 年2回、2016年度～: 年1回) ・2020年度: 第31号 論文7本、研究ノート2本 『INTERNATIONAL JOURNAL OF JAPAN ACADEMIC SOCIETY OF HOSPITALITY MANAGEMENT』 (2012年～、年1回(2013年は年2回)) ・2020年度: Vol.7 No.1 論文3本
7	総合観光学会 The Japan Society for Interdisciplinary Tourism Studies ○正会員 98名 (正会員94名、学生会員4名) (2021年8月現在)	【会長】 大江雄雄(東京農業大学) 【事務局】 立教大学観光学部 東徹研究室 【支部】 なし	○全国学術研究大会の開催(年1回) ・統一論題: コロナ禍と観光【2021年1月10日(日)オンラインで開催】 ○観光フォーラム ※秋季に富山で開催予定であったがコロナ禍により中止 ○学会誌『総合観光研究』の発行(創刊号からJ-STAGEで公開) ○会報の発行(第36・37号) ○その他(学会公式HPの刷新 <a href="https://sogokanko.jimdfree.com/">https://sogokanko.jimdfree.com/</a> )	【学会誌】 『総合観光研究』(2002年度～、年1回刊行) ・2020年度: 第19号(2021年3月) 論文1本、研究ノート2本(J-STAGEで閲覧可能)

付記

観光研究

	学会名・会員数	会長、本部/事務局、支部	活動内容(2020年度)	学会誌(機関誌)、大会論文集
8	観光まちづくり学会 The Society of Tourism and Community Design ○正会員 116名 ○学生会員 3名 ○院生会員 4名 ○法人会員 4団体 ○名誉会員 6名 (2021年10月現在)	【会長】 細野昌和(北海商科大学) 【本部/事務局】 (一社)岩手県土木技術センター内 【支部】 北海道支部(2008年～)	○役員会、総会の開催 ○学会誌の発行(『観光まちづくり学会誌』) ※以下は新型コロナウイルスにより延期 ○研究大会の開催(年1回、基調講演、研究発表、会員総会等) ○学会賞の授与(学術論文賞・優秀発表賞) ○講演会、講習会の開催 ○調査研究、視察会の開催	【学会誌】 『観光まちづくり学会誌』(2003年～、年1回) (2020年度: 第17号 論文8本、報告1本) 【大会論文集】 なし(学会誌及び学会ホームページに掲載)
9	日本観光ホスピタリティ教育学会 The Japanese Society of Tourism and Hospitality Educators(JSTHE) ○正会員 182名 ○準会員 8名 ○特別会員 1団体 ○名誉会員 4名 (2021年8月現在)	【会長】 穴戸学(日本大学) 【本部/事務局】 杏林大学外国語学部内 【支部】 なし	○全国大会の開催(年1回、講演、事例報告、教育実践報告・研究教育論文発表、ワークショップ等) ・2020年度第20回全国大会テーマ: With / After コロナ時代における観光ホスピタリティ教育のあり方【オンライン開催】 ○総会・シンポジウムの開催(年1回) ○研究会の開催(年1～3回) ○機関誌の発行(『観光ホスピタリティ教育』) ○学術論文集の発行(『全国大会論文集』) ○Newsletterの発行(年3回程度)	【学会誌】 『観光ホスピタリティ教育』(2006年～、年1回) ・2020年度: 第14号 教育実践報告2本、特集(新型コロナウイルス感染症拡大とオンライン授業への対応)8本、書評3本、総会報告 【大会論文集】 『全国大会論文集』(年1回)
10	観光情報学会 Society for Tourism Informatics ○正会員 159名 ○学生賛助会員 8名 ○ゴールド賛助会員 5名 ○個人賛助会員 4名 ○企業・団体会員A 2団体 ○企業・団体会員B 5団体 (2021年7月27日現在)	【会長】 大数多可志(NPO法人日本海国際交流センター) 【本部/事務局】 北海道大学 情報科学研究科内 【支部】 なし	○全国大会の開催(年1回、基調講演、パネル討論、学術講演セッション、総会等) ※2020年度第17回大会はコロナ禍により中止 ○研究発表会の開催(年2回、研究発表、エクスカーション) ※2020年度はコロナ禍により1回のみ開催 ○観光情報学研究会の開催(さっぽろ、はこだて、かがの、たいせつかみイ、ちゅうしこく、いわて、オホーツク圏、とうかい、きゅうしゅう) ○学会誌の発行(『観光と情報』) ○賞の授与(大会優秀賞、大会奨励賞、研究発表会優秀賞、研究発表会奨励賞、功労賞) ○メールニュースの配信 ○情報提供事業、コンサルティング、活動支援等	【学会誌】 『観光と情報』(2005年度～、年1回) ・2020年度: 第16巻 特集記事(物語と観光)3本、学術研究論文3本、産業化論文1本 【大会論文集】 『全国大会講演予稿集』(2004年度～、年1回) 『研究発表会講演論文集』(2009年度～、年2回)
11	コンテンツツーリズム学会 The Academy of Contents Tourism(ACT) ○正会員 113名 ○学生会員(大学院生) 16名 (2021年6月末現在)	【会長】 増淵敏之(法政大学) 【本部/事務局】 法政大学大学院政策創造研究科 増淵敏之研究室 【支部】 なし	○論文発表大会(年1回、特別講演、論文発表、講評等) ・2020年度第8回全国大会特別講演テーマ: 真新しいのに懐かしい、古めかしいのに輝かしい未来志向のミュージアム「トキワ荘マンガミュージアム」が再現した「モノ」と「コト」【オンライン開催】 ○学会論文集の発行(『コンテンツツーリズム学会論文集』) ○シンポジウムの開催(年1回) ・2020年度シンポジウムテーマ: ポストコロナのコンテンツツーリズム ○研究会(不定期開催)	【学会誌】 『コンテンツツーリズム学会論文集』(2014年度～、年1回) ・2020年度: 論文3本、研究ノート1本、その他1本 【大会論文集】 なし
12	観光学術学会 Japan Society for Tourism Studies(JSTS) ○正会員(一般) 363名 ○正会員(院生) 67名 ○正会員(シニア) 2名 ○準会員 1名 ○名誉会員 1名 (2021年3月現在)	【会長】 藤巻正己(立命館大学) 【本部/事務局】 (有)CR-ASSIST(大阪府) 【支部】 なし	○全国大会の開催(年1回、基調講演、フォーラム、大学院生育成セミナー、学生ポスターセッション、一般研究発表等) ※2020年度第9回全国大会はコロナ禍により中止、発表予定の研究報告要旨を『2020年度研究報告要旨集』として発行。 ○研究集会の開催 ・2020年度第8回研究集会テーマ: リベラルアーツとしての観光一ツウリストのリテラシーとは何か【オンライン開催】 ○機関誌の発行(『観光学評論』) ○学会賞の授与(著作賞、論文賞、教育・啓蒙著作賞など8種、2013年度～) ○図書等の刊行 ○観光学の研究調査 ○国内外の学術団体、学会との連絡・交流	【学会誌】 『観光学評論』 ・2020年度: 年1回/2013年度～、年2回 ・2020年度: vol.9 No.1 特集論文(『観光まちづくり』論の新たな地平をひらく)4本、書評1本 vol.8 No.2 特集論文(観光と都市再編一ツウリスト・シニアリフィケーションの諸相)4本、書評1本 【大会論文集】 『全国大会発表要旨集』(2012年度～、年1回)

付記

観光研究

資料: データベース「学会名鑑」、各学会ホームページ、各学会への聞き取り調査から(公財)日本交通公社作成(2020年9月現在)  
(注) データベース「学会名鑑」(日本学術会議、公益財団法人日本学術協力財団、国立研究開発法人科学技術振興機構、http://gakukai.jst.go.jp/gakkai/)に収録されている国内の主要学術団体(2020年8月16日現在、2,062件)のうち、学会名称に「観光」「ツーリズム」「旅行」「リゾート」「余暇」「レジャー」「レクリエーション」「ホスピタリティ」のいずれかの語が含まれる学会を「国内の観光関連学会」として抽出した。

表 付記-6 科研費「観光学関連」の総配布額の上位研究機関(2020年度)

研究機関	採択件数	総配布額(千円)	研究機関	採択件数	総配布額(千円)
九州産業大学	4	14,690	静岡文化芸術大学	2	24,440
北海道大学	4	11,750	高崎経済大学	2	7,020
立教大学	4	36,270	多摩大学	2	7,540
和歌山大学	4	20,020	東海大学	2	7,540
東京都立大学	3	23,400	獨協大学	2	5,720
奈良県立大学	3	23,920	兵庫県立大学	2	3,770
福知山公立大学	3	8,710	横浜商科大学	2	3,770
立命館大学	3	6,890			

(注) 審査区分において「小区分80020:観光学関連」、また研究期間の開始年度が2020年度のを対象としている。

資料: 科学研究費助成事業データベースより(公財)日本交通公社作成

表 付記-5 科研費「観光学関連」の新規採択研究課題(2020年度～)

研究課題名	研究種目	研究機関
POW Tourism and Japan-Australian Reconciliation	基礎研究(B)	京都大学
積極的平和構築のツールとしての観光研究—中米地域におけるエコツーリズムを事例に	基礎研究(B)	静岡文化芸術大学
EUによる域内観光振興に関する資金支援政策の研究—ギリシャを事例に—	基礎研究(B)	静岡文化芸術大学
「道」の魅力の解明: 歩く旅の心理的機能と地域資源としての「道」	基礎研究(B)	信州大学
観光とコミュニケーションに関わるコンピテンシー評価指標の開発	基礎研究(B)	成蹊大学
データフュージョンによる時空間解像度の高い地域観光統計整備手法の開発	基礎研究(B)	東京都立大学
農山村地域における観光施設の遊休化が及ぼす地域社会への影響と観光イノベーション	基礎研究(B)	東京農業大学
開発途上国におけるホームステイを中核とした観光開発に関する国際比較研究	基礎研究(B)	奈良県立大学
オリンピックを契機とした新観光者層指標と観光施設経営ロジックの解明	基礎研究(B)	横浜市立大学
観光計画概念としてのスマルスケープに関する基礎的研究	基礎研究(B)	立教大学
ツーリズムの心理的効果に関する研究	基礎研究(B)	立教大学
Confronting difficult past: Dark Tourism development in Japan:	基礎研究(B)	和歌山大学
インバウンド客の増加にともなう観光産業におけるマネジメントの諸課題	基礎研究(B)	早稲田大学
観光者の問題行為を誘発する観光者の認知特性、思考プロセス等に関する研究	基礎研究(C)	愛知東邦大学
世界文化遺産の持続可能な開発に貢献するステークホルダーエンゲージメントの実態解明	基礎研究(C)	茨城キリスト教大学
旅行者の娯楽としての風景画制作—18世紀グランド・ツアーにおけるアルカディア体験	基礎研究(C)	岩手大学
登山道のオーバー・アンダーユースを発生させる観光行動のメカニズムに関する研究	基礎研究(C)	愛媛大学
東南アジア諸国と日本のレジャー活動データ比較	基礎研究(C)	桜美林大学
地域通貨等が観光消費に与える影響の実証的研究	基礎研究(C)	大分大学
港湾観光都市における津波率先避難の意思決定モデル構築とシミュレーション分析	基礎研究(C)	小樽商科大学
資源保全に効果あるツアーガイドスキルの育成: 国際比較によるトレーニング指標の確立	基礎研究(C)	金沢大学
生活都市のビジョンの共実現と持続可能な観光の運動的な展開	基礎研究(C)	金沢工業大学
ウェルネス概念からみたアルザス地方のガストロノミーウォーキングに関する研究	基礎研究(C)	関西国際大学
人新世におけるツーリズムとその課題—脱炭素社会に向けたツーリズムのあり方	基礎研究(C)	九州産業大学
隣接国間の相互理解に資する観光関連施設の多言語対応—北部九州における韓国語対応—	基礎研究(C)	九州産業大学
旅行業経営における競争優位性に関する理論・実証的研究	基礎研究(C)	九州産業大学
CBTによる農村観光の持続的展開—市民参画の方式をめぐる日中共同研究—	基礎研究(C)	京都女子大学
宇治茶の生産・文化を持続させる「地域主導型」ツーリズム・マネジメント」手法の開発	基礎研究(C)	京都文教大学
日本の観光政策の変遷に関する学際的・実証的研究—一戦前期の観光関連組織に着目して	基礎研究(C)	公益財団法人日本交通公社
観光地における豪雨に起因する土砂災害の被害軽減策の提案	基礎研究(C)	神戸市立工業高等専門学校
最新デジタルテクノロジーを活用した観光情報発信と2次交通の研究	基礎研究(C)	札幌国際大学
観光混雑回避に向けた自発的行動変容を促すゲーミフィケーション導入に関する実証研究	基礎研究(C)	芝浦工業大学
国内外からの国際会議参加者の参加動機を誘発する開催地選定基準に関する研究	基礎研究(C)	城西国際大学
歴史文化資源を基にした地域ストーリーの異文化間インタープリテーション	基礎研究(C)	大東文化大学
インバウンド観光に対する住民の態度: 多様な他民族に対する考えの観点から	基礎研究(C)	高崎経済大学
観光まちづくりを牽引しうるリーダー像の構築とリーダー育成プログラムの開発	基礎研究(C)	高崎経済大学
観光資源としてのジャパニーズ・ポップカルチャー・イベントの発展パターン分析	基礎研究(C)	拓殖大学
我が国ブライダルツーリズムのビジネスモデル化研究	基礎研究(C)	千葉商科大学
世界遺産エリアにおける公共空間の防災計画	基礎研究(C)	帝京平成大学
SNS収集データをもとにしたAI技術を用いたWeb情報の推薦	基礎研究(C)	東海大学
「関係人口」創出を目指す「関係案内人」の役割や創出評価の枠組形成に関する実証研究	基礎研究(C)	東海大学
訪日外国人の観光危機管理における情報収集行動と避難行動の影響分析	基礎研究(C)	東京工業大学
データに基づく効果検証を伴った地方創生シニアプロモーションモデルの開発	基礎研究(C)	東京都市大学
ワールドライフツーリズム枠組みを活用した野生動物と人間社会の共生システム	基礎研究(C)	東京都立大学
Exploring the voice of a host community in 'overtourism': The case of Kyoto	基礎研究(C)	同志社大学
観光地における創造的環境の成立要因に関する研究	基礎研究(C)	東洋大学
タイ地方都市における創造都市化とローカル・コミュニティ再編に関する民族誌的研究	基礎研究(C)	獨協大学
観光みやげにおける贈答コミュニケーションに関する研究	基礎研究(C)	獨協大学
観光資源としてのライブ・エンターテインメントの「楽しさ」と課題に関する研究	基礎研究(C)	長崎県立大学
里山・里海のマネジメントを促す地域圏の解明: 当事者意識の向上と都市地域連携	基礎研究(C)	名古屋大学
スタジアム・アリーナ改革を通じた地域活性化に関する理論、実証、および、政策研究	基礎研究(C)	名古屋学院大学
奈良のシカを中心とした野生動物の観光資源化に関する研究	基礎研究(C)	奈良県立大学
周遊型観光消費モデルの小地域への展開～複数交通ネットワークの連携効果の計測～	基礎研究(C)	南山大学
地域再生に向けた地域外関係者のかかわりと観光地域ガバナンスに関する研究	基礎研究(C)	阪南大学
訪日観光客のリピーター行動要因に関する研究	基礎研究(C)	一橋大学
マレーシアの世界遺産都市にみる観光過剰の把握と規制誘導による持続的観光施策の探求	基礎研究(C)	兵庫県立大学
日本の島嶼部における複合的観光システムのレジリエンスを高める要因の検討	基礎研究(C)	広島大学
MassiveDataの収集・分析手法を用いた持続的な観光振興による地域への影響	基礎研究(C)	広島修道大学
観光者の動態把握におけるビッグデータ活用	基礎研究(C)	福知山公立大学
国際リゾート地ニセコにおける外国人ワーキング・ホリデー・メーカーの生活と労働	基礎研究(C)	北星学園大学短期大学部
中国中産階級の観光行動とナショナル・アイデンティティに関する研究	基礎研究(C)	北海道大学
北海道ガーデンツーリズムに関する研究—英国との比較から	基礎研究(C)	北海道大学
Community-based participatory governance in tourism	基礎研究(C)	安田女子大学
ワーケーション導入による実施企業、従業員、地域への効果および影響について	基礎研究(C)	山梨大学
外国人と複数ルートを対象にした富士登山者の転倒リスク軽減に関する疫学的研究	基礎研究(C)	山梨県富士山科学研究所
商店街におけるWeb・ソーシャルメディアを活用した活性化	基礎研究(C)	横浜商科大学
屋外遊園地の経営・マーケティング研究—5市町村の施設による比較研究—	基礎研究(C)	横浜商科大学
歴史的参詣道の景観資源性を活かした新たな自然歩道ネットワークの計画論に関する研究	基礎研究(C)	立教大学
現代観光におけるガイドツアーの重要性に関する研究: 産業遺産を事例として	基礎研究(C)	立命館大学
グローバルなアジア世界の共生を志向するポリフォニック・ツーリズム(多声的観光)	基礎研究(C)	立命館大学
ウェルネスツーリズムの学術基盤構築に関する研究	基礎研究(C)	琉球大学
ビッグデータの活用によるスマートツーリズム・デザイン・ソリューションの構築と価値共創	基礎研究(C)	和歌山大学
日本人旅行者の予防接種行動と関連する因子構造の解明	若手研究	岐阜大学
近代日本における宿泊旅行の量的拡大に関する歴史社会学研究—昭和戦前期を中心に—	若手研究	九州産業大学
文化遺産観光における観光者のパフォーマンスと地域社会との相互作用についての研究	若手研究	京都橋大学
旅行者のシェアリングエコノミー利用行動における心理的メカニズムの解明	若手研究	成城大学
日本におけるVFR旅行の実態と成立プロセス—訪日中国人を事例に—	若手研究	多摩大学
タクツーリズムから公共ツーリズムへ: 中国における自然災害遺産の保存と活用	若手研究	多摩大学
レベニューマネジメントに基づくオーバーツーリズムの指標開発とその評価	若手研究	東京都立大学
The role of Mega-tourism events in disaster recovery, implications for local communities	若手研究	東北大学
持続可能な観光としてのコミュニティ・ベースド・ツーリズムの有効性に関する研究	若手研究	奈良県立大学
A study on the causes and effects of stressful situations in tourism of Japanese people	若手研究	兵庫県立大学
ソーシャルメディアを利用した旅行計画者の行動のモデル化	若手研究	広島経済大学
観光地のスマート化とデータマネジメントに関する研究	若手研究	福知山公立大学
農山漁村地域における住民の対外国人意識に関する研究	若手研究	福知山公立大学
宿泊レビューに対するレスポンス管理の理論と手法の構築	若手研究	北海道大学
温泉地における廃業宿泊施設の取壊しと跡地再利用に関する研究	若手研究	立教大学
「おもてなし」概念の再定義と経済的価値指標の構築—歴史史料からのアプローチ—	若手研究	立命館大学
Analysis of tourism guiding in pilgrimage: Model for perception of role of guides	若手研究	和歌山大学
Attitudes of non-host city residents toward a mega-event during the pre-event stage: A longitudinal study	若手研究	和歌山大学
日本の低消費型野生動物ツーリズム: オンラインオフライン混合空間における意味と倫理	特別研究員奨励費	北海道大学

(注) 審査区分において「小区分80020:観光学関連」、また研究期間の開始年度が2020年度のものを対象としている。

資料: 科学研究費助成事業データベースより(公財)日本交通公社作成